

斑点米カメムシ類の発生が多い
～畦畔や農道の除草を徹底してください～

- 1 病虫害名：斑点米カメムシ類
 - 2 発生作物：水稻
 - 3 発生地域：全県
 - 4 発生量：多い
- 5 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）
- (1) 7月2半旬の巡回調査（畦畔40回すくい取り調査）における斑点米カメムシ類の発生日点率は58%（平年61%）で平年並、すくい取り数は平均12.4頭（平年6.4頭）が多かった。そのうち、アカスジカスミカメは7.0頭（平年0.7頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメは5.4頭（平年4.3頭）であった（表-1）。
 - (2) 発生は県内全域で確認されている（図-1）。特に、出穂しているイネ科雑草が見られる畦畔では、すくい取り数が多かった（表-2）。
 - (3) 7月2半旬の巡回調査における水田内の雑草は、ノビエが56%、カヤツリグサ科雑草が66%のほ場で発生していた。これらの雑草が出穂すると、アカスジカスミカメの本田侵入を助長し、被害が甚大となる。
 - (4) 県内6地点の予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺状況は、平年や前年と比較して多く推移しており、7月1半旬の誘殺数はアカスジカスミカメが9.7頭（平年0.8頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメが29.8頭（平年10.0頭）と多かった（図-2、3）。
 - (5) 7月5日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量は平年並又は多いと予報されている。
 - (6) 以上のことから、水田周辺での斑点米カメムシ類の発生は更に多くなると予想され、イネの出穂前に斑点米カメムシ類の増殖源をなくす必要がある。
- 6 防除対策
- 斑点米カメムシ類はイネ科雑草の穂や葉鞘に産卵して増殖するため、畦畔や農道の除草を徹底し、密度低減を図る。
- (1) 畦畔や農道の草刈りは、イネの出穂10日前（本年は7月20日頃）までに実施する。8月には出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布後に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。その後、イネの収穫2週間前までは草刈りしない。
 - (2) 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すると40～50日の抑草効果が期待できる。
 - (3) 法面や休耕田等で茎葉散布剤を散布しない雑草地は、イネの出穂10日前までに草刈りを実施し、その後、イネの収穫2週間前までは草刈りしない。
 - (4) 水田内のノビエやホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草の除草を徹底する。除草剤の使用にあたっては使用時期に注意する。
 - (5) 斑点米カメムシ類の発生が多いことから、本年の茎葉散布剤は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回散布が基本となる。散布計画の策定と薬剤の準備を早めに行う。

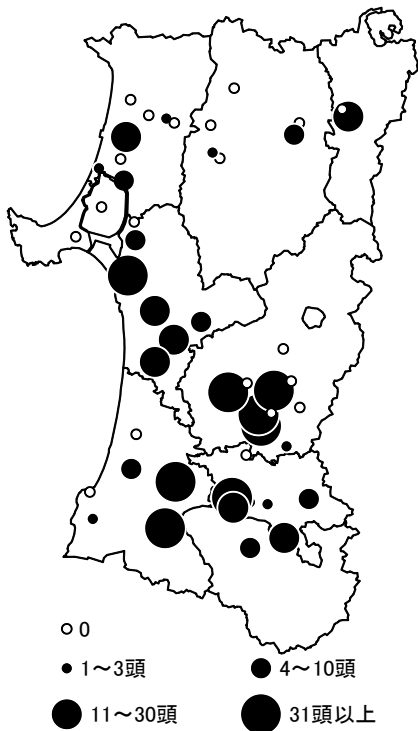
7 資料

表－1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月2半旬)

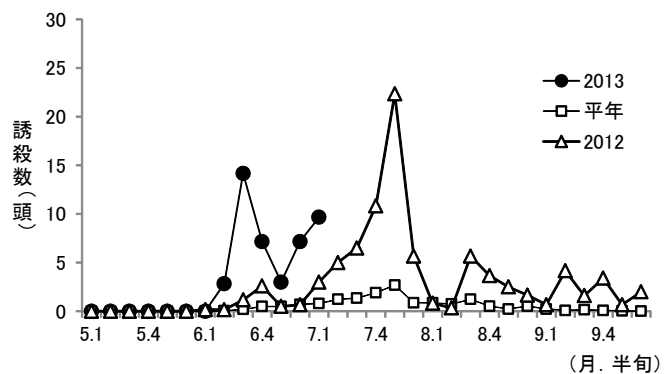
	アカスジカスミカメ		アカヒゲホソドリカスミカメ		斑点米カメムシ類	
	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)
2013	7.0	40	5.4	52	12.4	58
平年	0.7	11	4.3	50	6.4	61
概評	多	多	並	並	多	並

表－2 畦畔雑草の発生状況別のすくい取り数(7月2半旬)

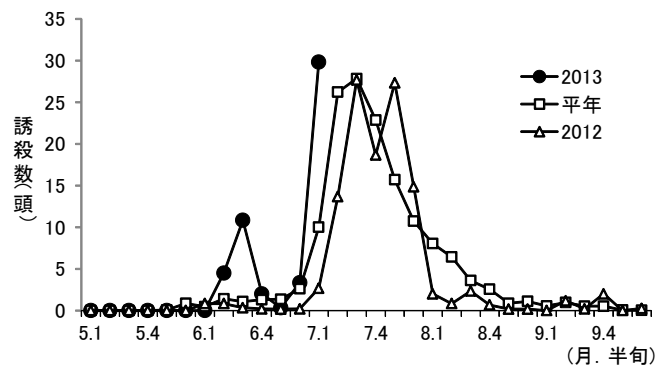
雑草の発生状況	地点率(%)	アカスジカスミカメ(頭)	アカヒゲホソドリカスミカメ(頭)
除草が徹底されている	14	0	0
除草しているが、新葉が伸びている	38	0.5	0.8
出穂しているイネ科雑草がある	48	22.6	21.3



図－1 斑点米カメムシ類のすくい取り数



図－2 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺消長(県内6予察灯の平均値)



図－3 予察灯におけるアカヒゲホソドリカスミカメの誘殺消長(県内6予察灯の平均値)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-860-3421
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3327
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>